

橋梁点検の結果（橋長15m以上）

(1) 点検実施橋梁

平成21年度に実施した橋梁点検、133橋の橋種別集計を図-1に示す。

- 橋長は15～50m未満の割合が7割を占めており、50～100m未満は約2割、100m以上は約1割となる。
- 架設後経過年数は30年以上が5割を占め、架設年次不明の橋梁が約1割ある。
- 橋種は鋼橋が全体の5割弱、コンクリート橋が5割強となっている。

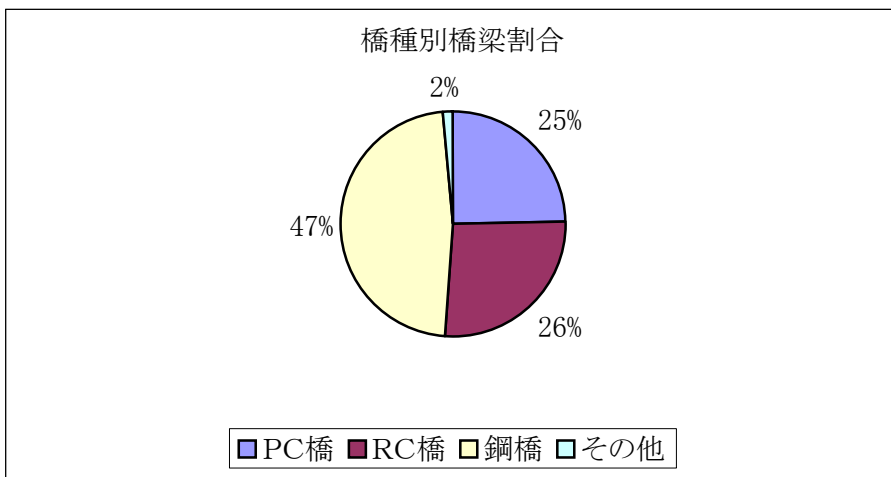
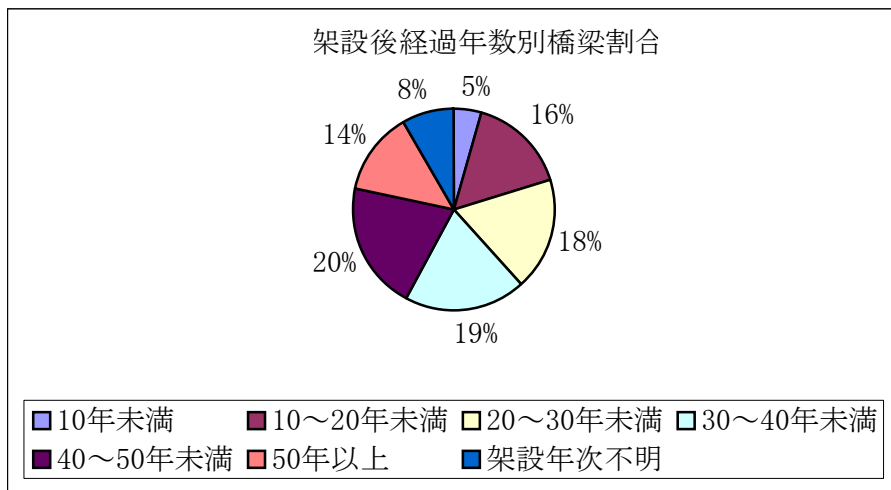
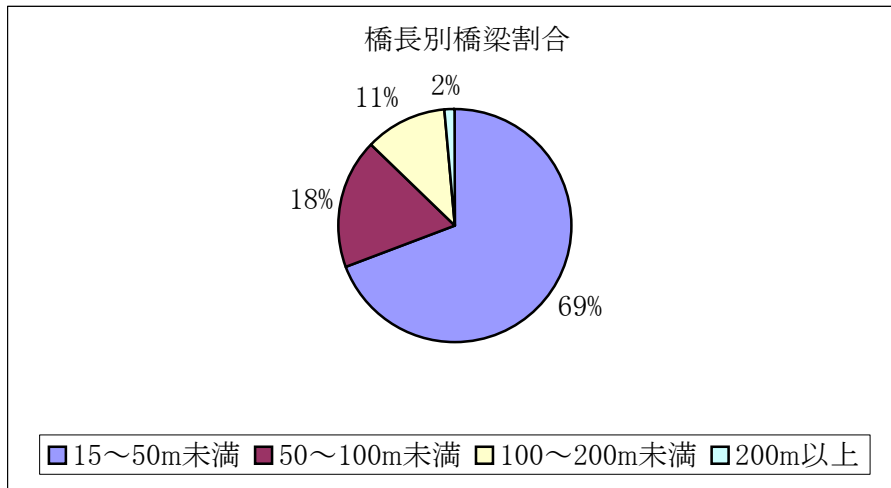


図-1 平成21年度点検橋梁の内訳

(2) 損傷状況

平成21年度点検橋梁の損傷について、図-2に示す。

- 橋梁主要構造(上部工、下部工)の損傷は橋桁の損傷が約5割にみられ、床版、下部工の損傷は3割強である。
- 路面、支承部の損傷は約2割の橋梁に見られる。

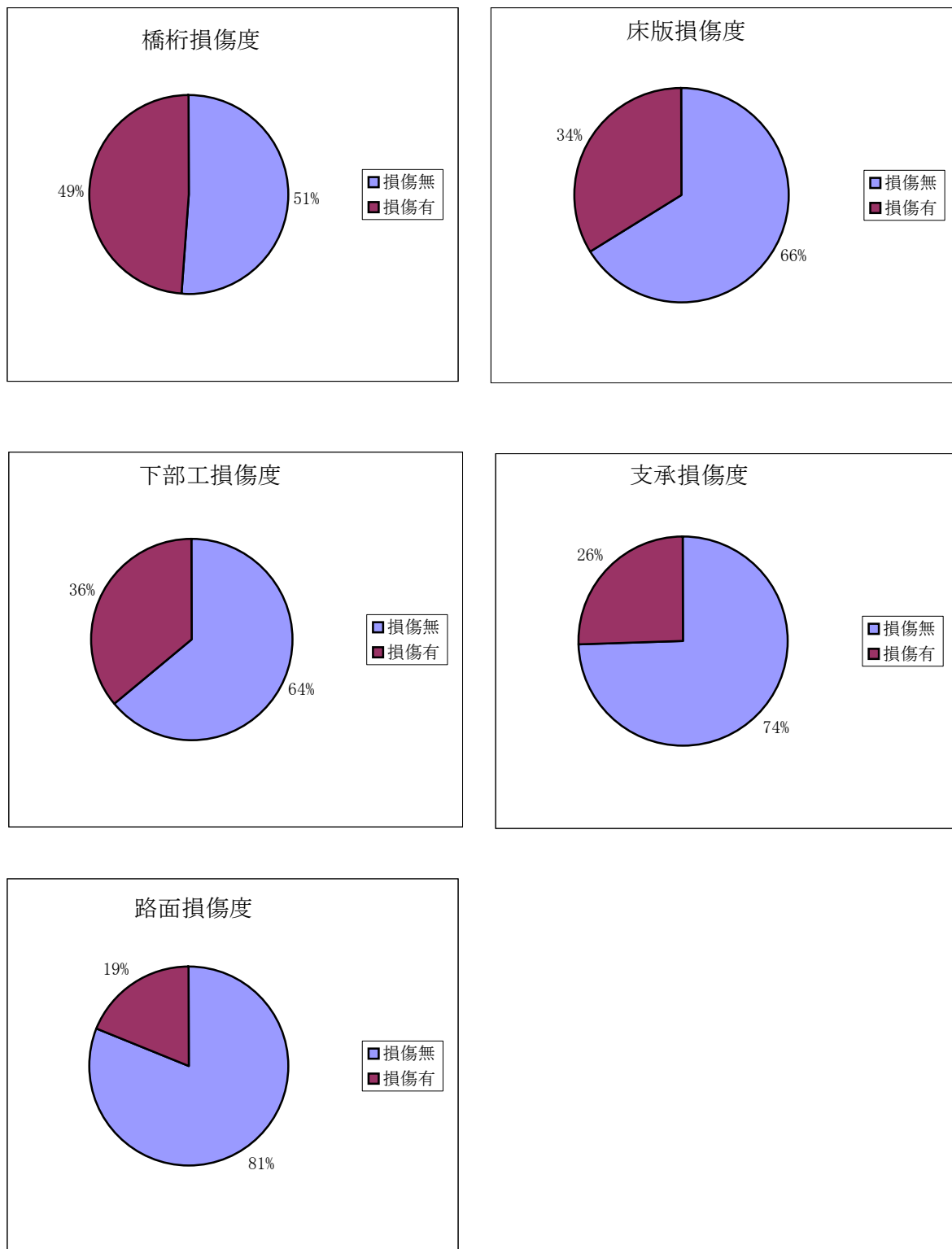


図-2 点検橋梁の損傷状況